

# 福島第一原子力発電所の状況

平成26年11月17日  
東京電力株式会社

## <1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (11/17 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約2.0 m <sup>3</sup> /h	23.9 °C	3.6 kPa g	A系： 0.04 vol%	B系： 0.03 vol%
		給水系：約2.2 m <sup>3</sup> /h				
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約2.4 m <sup>3</sup> /h	30.5 °C	4.49 kPa g	A系： 0.07 Vol%	B系： 0.07 Vol%
		給水系：約2.0 m <sup>3</sup> /h				
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約2.5 m <sup>3</sup> /h	29.0 °C	0.22 kPa g	A系： 0.06 Vol%	B系： 0.06 Vol%
		給水系：約1.9 m <sup>3</sup> /h				

## <2. 使用済燃料プールの状況> (11/17 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	17.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	15.5 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	12.7 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	13.4 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドへの注水を適宜実施。

・H26/11/18～ 4号機から共用プールへ運び込んだ使用済燃料5体について、今後、長期保管を行う上での健全性確認の一環として、国のプロジェクトによりIRID\*にて、水中カメラによる外観点検および腐食確認を行う予定。また、5体のうち2体については、燃料上部のロックナット部の一部を一時的に取り外し、ロックナット内側等の外観観察を実施予定。

\* 技術研究組合 国際廃炉研究開発機構 (略称:IRID(アイリッド))  
(International Research Institute for Nuclear Decommissioning)

## <3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	3号機タービン建屋	11/13 15:07 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	11/5 16:14 ~ 移送実施中

## <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/17 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運 転	水バランスを みて断続運 転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## <5. その他>

- H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
  - 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
  - 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
  - 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
  - 10/16～11/6 2号機海水配管トレンチ開削ダクトにて間詰め充填工事を実施。
  - 10/20～11/2 2号機海水配管トレンチ立坑Aにて間詰め充填工事を実施。
  - 11/17 9:39～15:22 グラウト充填工事に先立ち、凍結止水の効果確認、2号機タービン建屋と立坑の接続部の連通性確認および2号機海水配管トレンチ内への地下水流入確認を実施するため、2号機立坑Cから海水配管トレンチ内の滞留水を集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)に移送を実施。移送中および移送後の状況については、漏えい等の異常がないことを確認。
- H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
  - 6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
  - 10/3～ 凍土遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。
- H26/10/22 ～10/29 1号機原子炉建屋カバー解体作業における放射性物質の飛散抑制対策の一環として、当該カバー屋根パネルを取り外す前に同パネルに孔をあけ、飛散防止剤を散布する作業を実施。当該作業期間中、各ダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動はなし。
  - 10/31 オペレーティングフロアの瓦礫調査およびダスト濃度調査等を実施するため、建屋カバー屋根パネル2枚(南3・北3)の取り外し作業を行うこととしており、1枚目(南3)の取り外し作業を実施。
  - 11/10 8:31 屋根パネル2枚目の取り外し(吊降ろし)作業が終了。当該作業期間中において、ダストモニタの濃度およびモニタリングポストの指示値に有意な変動はなし。今後、取り外した屋根パネル(南3・北3)の開口部から、再度、堆積している瓦礫等へ飛散防止剤の散布を行うとともに、空気中のダスト濃度を確認した上でオペレーティングフロアの瓦礫の状況調査等を実施。

### 【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。(No.11 は藻のような生物を汲み上げた原因調査のため、10/15より停止中)
- 地下水バイパス一時貯留タンクグループ2の当社および第三者機関による分析結果[採取日 11/3]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、11/12 9:57、海洋への排水を開始。同日 10:02 に漏えい等の異常がないことを確認。その後、15:52 に排水を停止。排水停止状態において異常のないことを確認。排水量は 1,499m<sup>3</sup>。同日、この際の南放水口付近の海水についてサンプリングを実施し、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- 地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の当社および第三者機関による分析結果[採取日 11/8]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、11/17 10:03、海洋への排水を開始。同日 10:07 に漏えい等の異常がないことを確認。その後、15:57 に排水を停止。排水停止状態において異常がないことを確認。排水量は 1,477m<sup>3</sup>。

### 【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

#### <H4エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### <福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### <H6エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

### 【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

#### <地下水観測孔サンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

### 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

#### <地下貯水槽サンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。